

阿蘇タカナ（露地）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型	_____ - - - - - ○ _____											
主な作業	追肥	追肥	収穫							播種	間引	追肥き

タカナ アブラナ科、原産地：日本

作物名 阿蘇高菜

学名 *Brassica juncea* Czern. et Coss.

作型 露地栽培

(4) 経営規模 10 a

(家族労働力 2人の場合)

栽培技術

技術体系

1 作型の特徴

水田裏作として定着している。冬季間の低温の中に少しづつ生育し春先暖かくなつて一斉に抽だいしてくるので 20～30 cm 程度に伸びてから柔らかい部分を手で折り採り収穫する。

収穫物は、阿蘇高菜漬として地域の特産物となつてゐる。

2 適応地域

阿蘇を中心とした高原地域

3 栽培条件

(1) 温度

生育初期には、耐寒性はあるが生育が進むと寒害を受けやすくなる。（1、2月暖冬の場合は生育が促進され3月に寒波がくると寒害を受けやすい。）

(2) 土壤条件

排水及び保水性が良く肥沃な土壤を選定し、PHは、6.0～6.5に調整する。

4 経営目標

- (1) 収量 1.5 t / 10 a
- (2) 投下労働時間 38 時間 / 10 a
- (3) 所得率 80 %

1 品種と特性

阿蘇地方で古くから栽培され、自家採種がほとんどで品種名は付いていないが、栽培されているものは次のように分類される。

- (1) 早生種：草姿は、直立型で葉肉薄く欠刻あり、軟らかで品質良、耐寒性強
- (2) 中性種：葉肉やや厚く欠刻あり、ややほふく型 品質良、耐寒性強
- (3) 晩生種：葉肉やや厚く欠刻少なく軟らかで品質良、耐寒性強
- (4) 晩々性種：葉の欠刻大でアザミ葉状、ほふく型 品質やや劣る、耐寒性極強

2 播種

(1) 播種期：10月中旬を中心とし、早くても10月10日、遅くても10月20日までに終わる。

(2) 播種量：10 a当たり 条まき 1～1.5 ℥ 散まき 1 ℥

(3) 播種法

条蒔き：条間 20～30 cm、鍬や耕耘機等で浅くまき溝を付け播種後軽く覆土する。

散蒔き：散蒔機でむらのないようにまき、播種後トラクターなどで鎮圧する。

3 施肥量

K g / 10 a

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基肥	1 1	1 4	4
追肥	2 2		4
全量	3 3	1 4	8

4 播種後の管理

(1) 間引き：本葉が3～4枚でた頃に密生部を間引
く

(2) 追肥：1回目=12月中旬、2回目=2月中旬、3回目=3月上旬頃に生育を見ながら各10a当たり尿素10～20Kgを施す。

5 収穫

草丈(芯)が20～30cmに伸びた頃に収穫する。
収穫は、晴天の日に手で折れるところから手で折り採るか、折れるところを確認して鎌で刈り取る。

6 加工

漬け込みの際は、出荷時期を考慮し食塩の量を加減する。(浅漬け=少量、長期保存=多め)